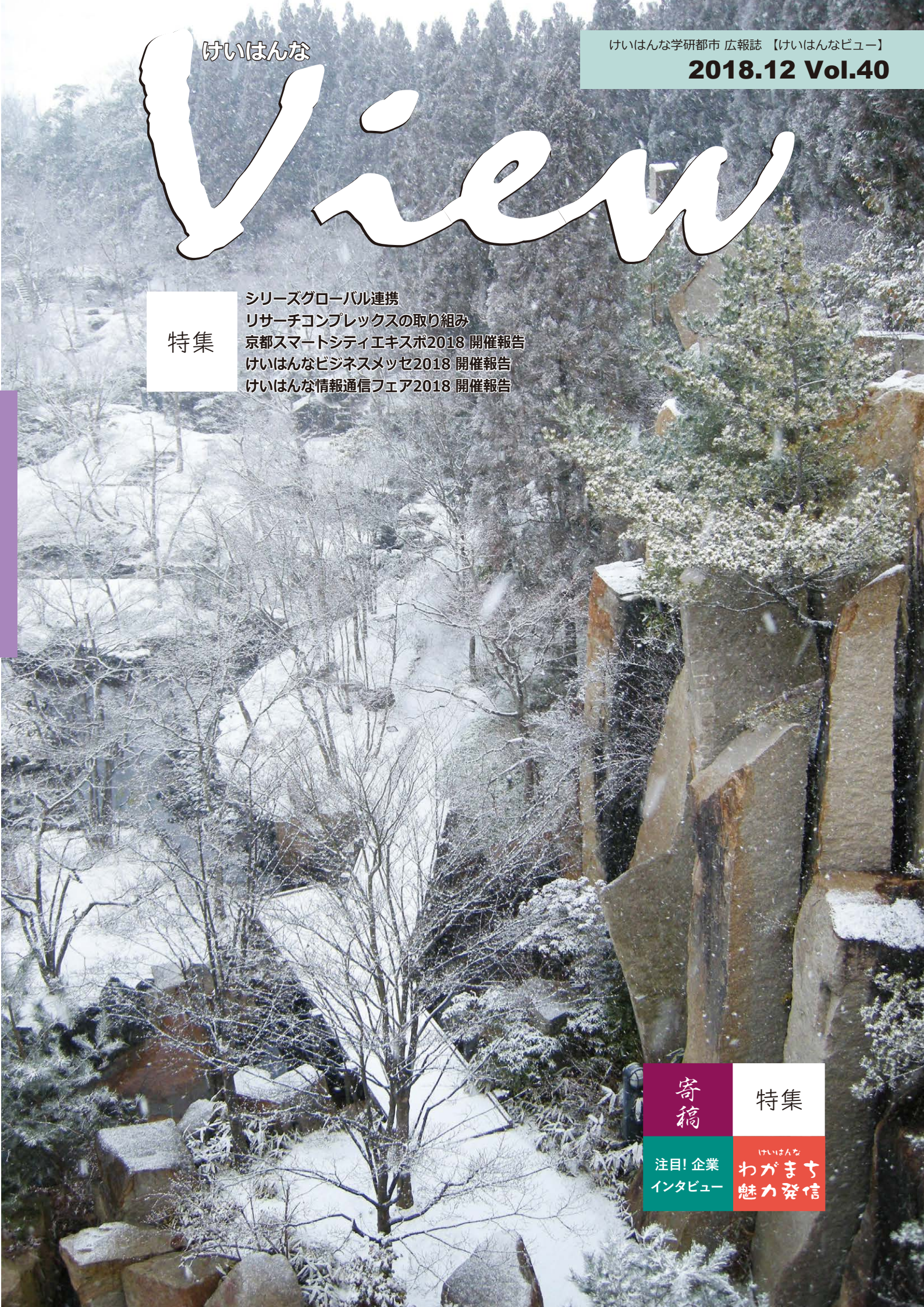


けいはんな学研都市 広報誌 【けいはんなビュー】
2018.12 Vol.40

# けいはんな View

特集

シリーズグローバル連携
リサーチコンプレックスの取り組み
京都スマートシティエキスポ2018 開催報告
けいはんなビジネスメッセ2018 開催報告
けいはんな情報通信フェア2018 開催報告

寄稿

特集

注目! 企業インタビュー

けいはんな わがまち魅力発信

寄稿

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所
代表取締役社長 浅見 徹 氏

# 大阪万博とイノベーション創出

ATRは、1986年に当時の郵政省、NTT、経済団体連合会、関西経済連合会、大学等による準備会の構想に基づいて、設立された研究所です。「①国際的な産・学・官の連携のもとに情報通信関連分野における先駆的・独創的研究の推進、②優れた成果を挙げて広く社会・人類の幸せに貢献するとともに高度な専門的人材の育成にも寄与する、③世界的な研究開発拠点として関西文化学術研究都市の発展に中核的役割を果たす」が設立時の経営方針でした。グローバリゼーションに加えて郷土愛を背景にしているのが、昨今の類似の取り組みと大きく異なる点です。

2025年の大阪万博においては、国連の定めた持続可能な17の開発目標（SDGs）の達成度合いが問われるでしょう。①に関して、当社は、ICT技術、特にAI、脳情報科学、ロボット、無線技術、生命科学の研究開発を通じた健康長寿社会実現を目指してまいりました。SDGsの中の保健とイノベーションが当社の社会的な使命です。AIに代表される機械化で増大する余暇の利用を促進し人間の幸福に結びつけられるような未来社会を設計して世界に示したいと考えます。また、研究者200名ほどの組織でございますが、②に関して過去30年間に海外から2500人ほど研究者を招いてまいりました。その中には国際的な研究者も数多く生まれております。人材の交流はイノベーションを実現する条件の一つです。当社だけでなく地域や事業分野レベルでも活かしていきたいと考えております。③郷土愛の観点では、けいはんなの地域的な特徴を生かして伝統と革新を取り込んだ技術の社会展開を目指しております。既存の枠組みにとらわれない自由な発想とモノ作りに向けて、地域と連携したイノベーションを目指すのは目標でもあります。

創業時の事業理念は変えず今日的な社会情勢に合わせて社会に貢献していきたいと考えておりますので、今後ともお付き合い願えれば幸いです。

## グローバル連携シリーズ2

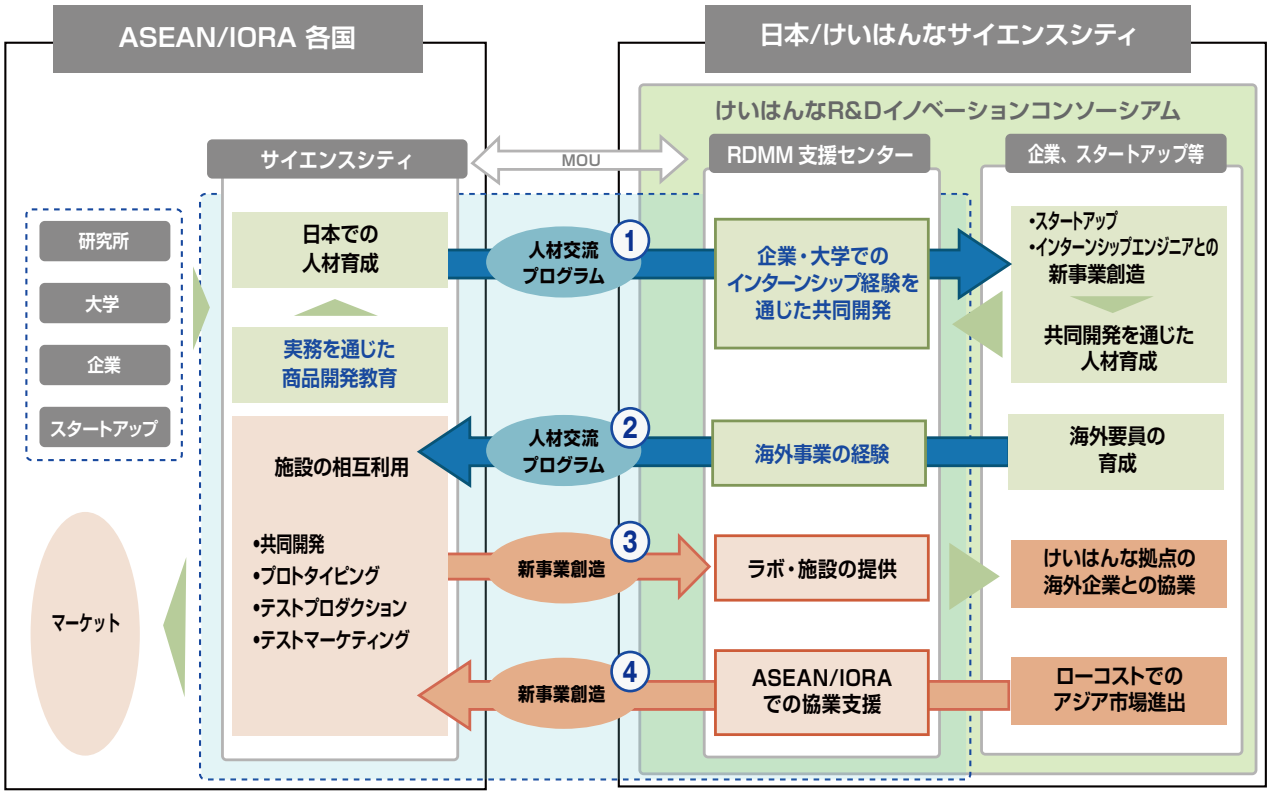
# ASEAN/IORA諸国とのイノベーション拠点連携プラットフォーム（AIJI-PF）の具体的展開

グローバルな社会貢献による日本のGDP（総生産）向上に向け、けいはんな学研都市では、成長性・将来性が期待できるアジアマーケットとの連携強化を狙った「ASEAN/IORA/日本（けいはんな学研都市）イノベーション拠点連携プラットフォーム（ASEAN/IORA/JAPAN Innovation-PlatForm、以下AIJI-PF）」による新産業創出に取り組んでいます。10月5日に第一回「ASEAN/IORA/日本イノベーション拠点連携サミット」を開催し、AIJI-PFのキックオフを行いました。AIJI-PFでは図に示す4つの施策により、海外のサイエンスパークとの連携を進めていきます。

1. 海外の優秀技術人材の日本国内への招聘と、共同開発／実務経験を通した海外優秀人材の育成支援
2. 日本人人材の海外サイエンスシティへの派遣と、海外での事業経験を通じた日本人海外要員の育成支援
3. 海外企業等のけいはんなへの招聘・誘致と、学研都市の施設・設備活用による日本企業との協業・日本市場への進出支援
4. 海外のサイエンスシティの施設・設備を活用した、日本企業による現地企業との協業・現地市場への進出支援

現在、タイのノーザンサイエンスパーク（NSP）とけいはんなの立地企業を中心に、AIJI-PFを活用した人材交流、拠点相互活用の検討を進めており、来年度以降具体的な連携を開始する予定です。今後、関西企業にも活用を広めるとともに、インドネシアなどASEAN/IORA各国のサイエンスパークにも展開し、グローバルに新産業創出の加速を図っていきます。

## イノベーション拠点連携プラットフォーム (AIJI-PF)




ASEAN：Association of Southeast Asian Nations（東南アジア諸国連合）
IORA：The Indian Ocean Rim Association（環インド洋地域協力連合）
MOU：Memorandum of Understanding

# イノベーションサミット国際会議2018（インドネシア）にてAIJI-PFの推進を加速

AIJI-PFの各国展開の具体化に向け、11月1日、インドネシア　ジャカルタ近郊タンゲランの国際会議展示場（International Convention and Exhibition）で開催されたイノベーションサミット国際会議2018「Innovation Summit and International Conference 2018」にRDMM支援センター丸野センター長が日本（けいはんな学研都市）の代表として参加しました。

本国際会議にはインドネシアを筆頭にフィリピン、インド、スリランカ、南アフリカ、チュニジアなどのASEAN/IORA各国の代表、並びに韓国、日本や、国連アジア太平洋経済社会委員会（UN ESCAP）、国連アジア太平洋技術移転センター（UN APCTT）の代表モデレーターとして日･ASEANイノベーション連携拠点（JASTIP）の代表も参加されました。会議では各国の代表からイノベーションに向けた取り組みや、特にスタートアップや中堅企業の育成と国際化に向けた事例紹介や課題が提起されると共に、これらの解決に向けた討議がなされました。

RDMM支援センターからは、ASEAN/IORA/日本（けいはんな学研都市）でのイノベーション拠点連携の重要性と、弊センターが構築提唱するAIJI-PFの具体的施策や取り組みについて説明し、今後の具体的展開について話し合いました。その結果、AIJI-PFを基本に、より具体的な広域ネットワークの構築を本国際会議参加国の間で検討すると共に、インドネシア科学院との間では、MOUの締結を迅速に進め、来年度より具体的連携を開始すべく議論を進めることを合意しました。翌11月2日には、各国から参加の企業を含めたメンバーによるビジネスマッチングが行われ、具体的ビジネスに関する活発な議論がされました。

今後、日本のアジアの国々における事業展開に向けて、けいはんな学研都市の果たす役割が大きくなってまいります。皆様の事業の海外展開へのお力になるべく一層力を入れてまいりますので、お困りごとやご要望などをお聞かせいただきたく、どうぞよろしくお願い致します。

# けいはんなリサーチコンプレックス

けいはんなリサーチコンプレックス(RC)事業は、産、官、学及び金融機関が連携・協力し、この地域の強みである*i-Brain*（脳情報科学等）と*ICT*（情報通信技術）の高度で豊富な蓄積を重層化し、現在のAIでは未だ十分に解明されていない脳科学分野の研究開発を戦略的に推進すると同時に、満足、達成、安心、安らぎ、感動、連帯など、「ココロ」の豊かさ向上に着目した、「超快適」につながる新たな技術・サービス等を社会実装することにより、人のココロに寄り添う「次世代型スマートシティ」の実現を目指しています。

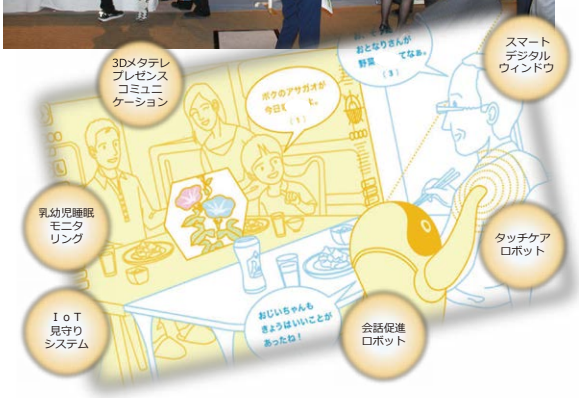
この目的達成に向けて、けいはんなRCでは、世界のトップを走るイノベーション都市との連携を重視しながら、①オープンイノベーションを推進する人材の育成、②大学、国の研究機関、企業等が共同で行う異分野融合研究開発、③実証実験等を行う共用設備の整備と運営、④研究開発の事業化やスタートアップの支援を総合的に推進しています。

## 京都スマートシティエキスポに出展

### 「超快適」をストーリーだてて展示

今年度の京都スマートシティエキスポでは、京都府郊外に住む若い息子夫婦と、京都市内のワンルームマンションで一人暮らしをする父親が、けいはんなにおいて研究開発が進む技術群を活用して「超快適」に暮らす様子をストーリーだてて展示することで、異分野融合研究開発の取り組み状況を、ご来場の皆様に広くアピールしました。

離れて住んでいても、あたかも同じテーブルを囲んで夕食をとっているかのような臨場感のあるバーチャルリアリティ空間の創出技術、若い夫婦がベビー服のウェアラブルセンサーにより赤ちゃんの睡眠の状態等をリアルタイムで把握できる心身快適モニタリング技術、一人暮らしの父親の健康状態をパジャマと一体型のセンサーにより遠隔で確認できる健康見守りIoTシステム、窓の無い部屋でも癒しの景色を提供するデジタルスマートウインドウをはじめ、けいはんなRC事業の取り組みが具体的にイメージできる技術を展示し、多くの方に興味を持っていただき、出展ブースは2日間にわたり多くの来場者で賑わいました。




### 2つのピッチ会（スター創生とKVeCS）を共同開催

また、メインホールでは、事業化支援の取り組みとして、国内から5社、海外連携先の一つであるスペインのバルセロナから3社（ELIPORT、SocialCoin、TunnII）の計8社のスタートアップ企業に参加いただき、（公財）京都産業21のスター創生事業と合同で、ピッチ会「けいはんなベンチャーチャンピオンシップ（KVeCS）」を開催しました。けいはんなRC事業では、国内5社を、11月13日から16日までバルセロナで開催されたスマートシティ世界会議2018のピッチ会に派遣して海外での投資獲得等にチャレンジいただき、けいはんなから世界に羽ばたくスタートアップの育成を進めました。

さらに、京都スマートシティエキスポに出展された台北市の「台北スマートシティプロジェクトマネージメントオフィス」の要請を受け、京都府の担当も交えて、けいはんなRCの取り組み等について意見交換し、今後のスマートシティ構築に向けた相互協力を約束しました。

KYOTO SMART CITY EXPO 2018

# 「京都スマートシティエキスポ2018」開催

スペイン・バルセロナ市で毎年開催されている「スマートシティエキスポ世界会議」との連携のもと、今年も「京都スマートシティエキスポ2018」が開催されました。

「安寧で持続的な未来を創る地域と産業～「超快適」スマート社会の創出～」をテーマとし、プレイベント（9月3日、21日 於 京都市内）とメインイベント（10月4日、5日 於 けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK））の4日間で約11,200人が来場して国際的なビジネス交流が活発に展開されました。国外からも多くの参加があり、けいはんなから発信するスマートシティや、関連するビジネス機会創出に対する注目がますます高まっています。

## オープニング

主催者及び来賓による挨拶により、ICT を活用した次世代の都市像を探る「京都スマートシティエキスポ 2018」が開幕しました。

主催者挨拶
京都スマートシティエキスポ
運営協議会
中本 晃 会長

主催者挨拶
京都府
西脇 隆俊 知事

主催者挨拶
公益財団法人関西文化
学術研究都市推進機構
柏原 康夫 理事長

来賓挨拶
駐日スペイン大使館
ゴンザレス 経済商務部所長

## 企業・団体展示

129企業・団体が出展。エネルギー、IoT、環境、ヘルスケア等多様な分野の最先端技術や取り組みが紹介され、ワールドワイドなビジネスマッチングや商談が行われました。Next Mobility Expo 2018、Maker Faireと併催し、試乗コーナーなど体験型の展示も。

## 記念講演・基調講演・スマートシティセミナー

スマートシティに関わる各分野の著名な講演者が多数登壇し、ICTなどの最先端技術やシステム、またそれらを活用した取り組みの動向等が紹介されました。

Cisco アジア太平洋エリア
S+CC（スマートシティソリューション）
営業統括マネージャー
ヤセール・ヘルミー 氏

BLOXHUB
（デンマーク・コペンハーゲン）
チーフコマーシャルオフィサー
フレデリック・タウバァ 氏

Deloitte LLP, Partner,
Global Transportation Leader
サイモン・ディクソン 氏

## 関西・ASEAN・環インド洋連合（IORA）イノベーション拠点連携サミット

成長性・将来性が期待できるアジアマーケットとの連携強化を狙った「ASEAN/IORA/日本（けいはんな学研都市）イノベーション連携プラットフォーム」のキックオフを実施。ASEAN各国のサイエンスシティと、人材交流・拠点相互活用による新事業創造に向けた各国各組織の活動紹介や意見交換を実施。

（P01を参照ください）

## Startup Day in Kyoto Smart City Expo 2018

けいはんなリサーチコンプレックス・KVeCSと、昨年度から京都スマートシティエキスポ内で開催しているKICK発・スター創生事業を共同で開催。京都発／日本発／バルセロナ発の国際色豊かで意欲的なベンチャー企業15社が、投資家やサポーターに対して独自の技術やアイデアを持つ事業計画をプレゼン。

（P03を参照ください）

Eliport Co-founder and
Partnership Director
Patrick Synge 氏

Social Coin CEO
Ivan Caballero Garcia 氏

Tunnll CEO
Kirill Blazhko 氏

## Next Mobility Expo 2018

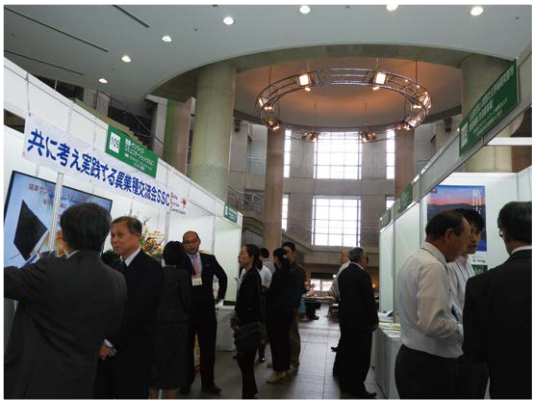
今年の新しい企画として、電気自動車、自動運転、小型モビリティ、エネルギーインフラとの連携、交通インフラ間の連携高度化（MaaS）などの最先端を紹介する Next Mobility Expo2018を併催。専門家の講演、実際にモビリティに触れることができる試乗、展示、熱気あふれる議論が行われたラウンドテーブルなどが展開されました。

## 全国自治体交流シンポジウム

昨年自治体セミナーとして初めて実施したプログラムを、今年は総務省とも連携し、2日にわたる盛りだくさんの内容に拡大して実施しました。企業と自治体が一堂に会し、各地でIoTなどの技術を活用して取り組まれている先進事例を紹介。

つながる技術、共創する未来へ

# けいはんな ビジネスメッセ 2018 開催報告



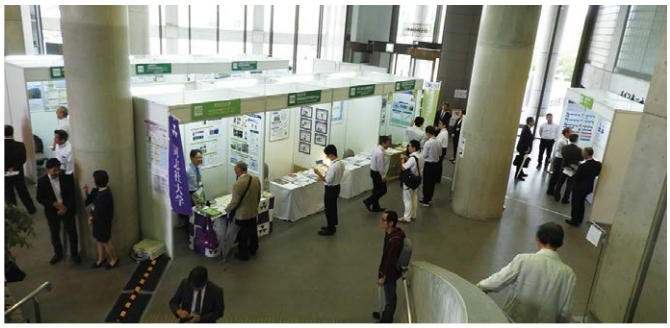

日時：2018年10月4日（木）5日（金）
場所：けいはんなプラザ イベントホール他
主催：(公財)関西文化学術研究都市推進機構
共催：(株)けいはんな

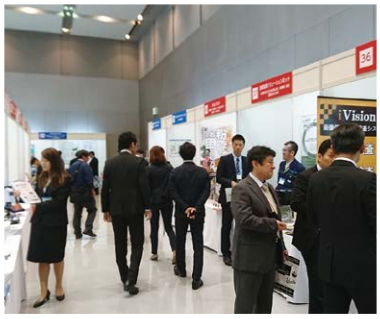
けいはんなビジネスメッセは、2006年9月「けいはんな知的財産フォーラム（展示会を併催）」を初回とし、けいはんな発の新しい産業の創出や地域産業の活性化を促進する産学公連携フェアとして毎年開催しています。

13回目となる今回は、けいはんなオータムフェアの主要イベントとして「京都スマートシティエキスポ」と初の同時開催とし、祝園駅と学研奈良登美ヶ丘駅から両会場を経由するシャトルバスに加えて、会場間を行き来するジャンボタクシーを運行。また、ビジネスマッチングの機会増大と相乗効果を期待して、双方の出展者がモニタを介して商談できる仕組みを導入しました。

環境・エネルギー・防災、機械・金属・化学等のものづくりやバイオ、ICT、医療・介護ヘルスケア等の幅広い分野から120の企業や大学・研究機関が出展。出展者がプレゼンテーション、e²未来スクエア見学会も実施し、地元密着型の異業種交流展示会として定着してきています。

■来場者数：10/4（木）778人、10/5（金）972人、合計1,750人　■出展者数：120企業・団体





出展者の声

## 付加価値を生む協力会社とのつながりを見出した

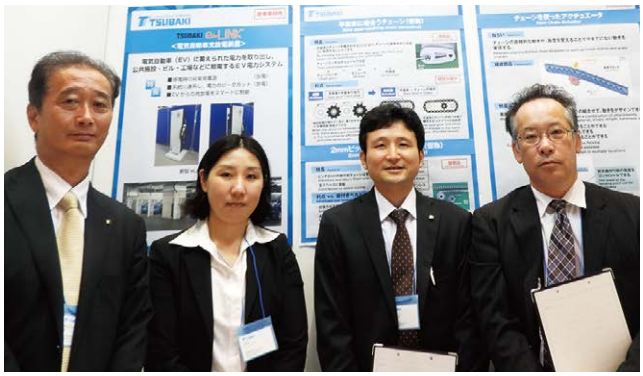
●(株)エスケイケイ 営業部
駿河 嘉一 氏

塗装済み材料のプレスやカシメ工程での高い技術で中間工程の無駄を省き、コスト削減を実現しています。メッセでつながった協力会社様との仕事では、近いので運送移動の無駄がなく、メリットは大きいです。

●京都プレス工業(株) 営業課
里村 淳二 氏

1～2個の少量対応から量産まで、金属加工を幅広く扱っています。試作から量産まで一貫受注する上で、協力会社さんと協業しています。毎年出展している中でパートナーや販路の開拓に手ごたえを感じています。

## 有効な手段である展示会で広く間口をひろげて



●(株)椿本チエイン 開発･技術センター
中川貴司 氏

当社のキーワードは「動かす」。2mmピッチのマイクロチェーンなど、これまで世の中になかった製品を展示して、新たな用途のアイデアを広くユーザーに探索したいと考えています。思いつくのには時間がかかります。すぐに食いつくといった反応はなくても、間口を広げて専門分野外の方にも見てもらいたい。また、新規事業を近場で一緒に展開できる協力会社様の開拓も目的に据えています。

## “学研都市” という環境で事業展開したい

●(株)ワンビリング 代表取締役　藤田 健次 氏

当社は、アニメの制作で使われたセル画や絵コンテ、原画など、アニメアーカイブと呼ばれ保存されているものをデジタル化して、制作技術の伝承や研究、学生への教育目的に利活用できるシステムを独自技術で開発しました。アニメアーカイブの保存･保管には成分分析の科学技術が、また大量の資料を管理･検索するにはAI技術が必要と考えています。有名アニメ作品を研究開発で使うことで知名度も上がり、文化的価値の高い貴重な資料を最先端科学技術で守ることもできる…このようなアニメアーカイブの新しい利活用をけいはんなで模索しています。

## 1 年越しで異業種出展者とのマッチングが実現

●デジタルアシスト(株) 代表取締役　鈴木 康生 氏

企業内の様々な書類を電子化し、情報の一元管理と共有化、データベースの構築をはかるツールとサービスを展開しています。昨年の出展時に斜め前のブースで出展していた(株)キャトルアイ･サイエンスさん（今回は、京都スマートシティエキスポに出展）とコラボレーションの話がまとまり、製品化を予定しています。同じ専門分野の展示会とは異なり、メッセでは異業種の出展者との思いがけない出会いがあります。

# けいはんな情報通信フェア2018

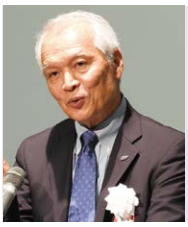
## ～想像を超える未来をけいはんなから～　開催報告

## 2018年10月25日(木)～27日(土)

「けいはんな情報通信フェア」は、けいはんな学研都市に立地あるいは関連する研究機関・企業・大学等が研究活動や最先端の研究成果を発信することによる、相互連携の促進、地域への貢献を目的としています。広く一般の方を対象に、研究発表と展示を中心とした毎年恒例の共同イベントとして定着し、今年は第10回目となりました。

けいはんなプラザ会場では、国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究センター長松岡聡氏による基調講演をはじめとした技術講演や中高生向けのサイエンストーク、情報通信技術（ICT）の最前線を紹介する展示が行われました。ATR会場では、「ATRオープンハウス2018」(10/25～26)が開催され、両会場併せて、延べ約3,100名の方々に来場いただきました。27日(土)は、科学に興味・関心を持つ中高校生が集い、日頃の研究成果を発表する「まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル」も開催され、大変盛況でした。

### オープニング・基調講演



**主催者挨拶**
(国研)情報通信研究機構
徳田 英幸 理事長

**来賓挨拶**
総務省近畿総合通信局
大橋 秀行 局長

**来賓挨拶**
精華町
木村 要 町長

**基調講演「大規模HPCによるビッグデータと人工知能の革新的な加速 ～ TSUBAME3、ABCIからPost-Kへ ～」**

国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究センター センター長　松岡 聡 氏

「京」をはじめとするスーパーコンピュータや大規模高性能計算機システムにより、ビッグデータの解析や人工知能に向けた研究が急速に進展しています。このような研究と計算機技術の進歩を解説いただき、次期スーパーコンピュータに向けた取り組みをご紹介いただきました。

### 展示

「けいはんな学研都市発、未来を感じる研究」と題し、情報通信研究機構(NICT)をはじめとした研究機関や、海外企業からも、様々な先端科学技術とその応用・展開について、49ブース出展いただきました。NICTでは、リアルタイム多言語字幕付与システムを出展し、スピーチのように途切れなく連続して話す言葉を遅延なく翻訳し、例えば日本語と英語など、リアルタイムで複数言語の字幕を表示するシステムを実演しました。けいはんな学研都市で行われている研究に直に触れる機会を、世代を超えて楽しんでいただきました。

## ATRオープンハウス2018

「Challenges for Social Issues ~Collaboration, Innovation, and Eco-system Creation~」をテーマに掲げ、科学技術イノベーションによって社会的課題の解決を目指す最先端の研究開発と拡がりをみせる事業開発の取り組みについて、外部機関の方々とともに講演や展示等で紹介しました。

初めて開催したパネルディスカッションでは、社内外の有識者6名が各々の専門知識と経験からロボティクスの未来について熱弁を振るい、注目を集めました。テーマ講演では、脳情報科学等4つの研究分野と事業開発のトップディレクター4名が、最新の成果を社会的課題の解決に結びつけて講演しました。またベンチャープレゼンテーションでは、事業拡大を目指すけいはんなATRファンド出資先等のベンチャー企業7社が、個性あふれるプレゼンテーションで将来の展望を紹介しました。展示では、ATRが研究開発してきた歴代のライフ・サポートロボットをデモンストレーションとともに紹介した「ネットワークロボット館」に幅広い世代の方々が多数訪れ、ロボット開発の歴史や機能を視覚的に学んでいただけたようです。また他の展示でも、展示担当者から研究開発の成果や事業の説明を熱心に聞く来場者の姿があちこちで見られました。

展示、講演ともに例年に増してバラエティに富んだ今年度のオープンハウス。来場者数は近年で最多となり、初めてご来場の方は勿論、リピーターの方にとっても意義深いイベントになったと感じています。

パネルディスカッション「ロボティクスの未来を語ろう」

ネットワークロボット館

## まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル ～ 中高生と研究者の出会い ～

今年で7回目となるこの催しは、奈良県立奈良高等学校が文部科学省のSSH事業の取り組みで、推進機構は精華町と共に「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの一環として、企画・運営に協力しました。

講演会場では、自然科学研究機構 基礎生物学研究所 渡辺英治准教授による「人工知能は錯視を知覚するか」と題した講演が行われました。続いて今年初の取り組みで、高校生による口頭発表があり、堂々とした姿に参加者の熱い視線が注がれました。

引き続きイベントホールで開催されたポスターセッションには、科学に興味・関心を持つ学研都市およびその周辺の中学・高校22校が出展し、講演会とあわせて約650名の方々に来場いただきました。「ドローンの製作」や「屋根の雪下ろしシステムの開発」のほか、環境を含む幅広い科学分野の研究成果が45テーマあり、会場を訪れた研究者や市民らとの間で熱心な対話が交わされました。日ごろの研究成果を発表する生徒たちの真剣な姿に、未来の研究者を感じた1日でした。

講演会「人工知能は錯視を知覚するか」

高校生による口頭発表

ポスターセッション会場

# トップは語る
# わが研究所は「今」

## 「正露丸」と「クレベリン」の研究を重ね、その成果に基づいた商品の開発と提供で、健康社会の「ないと困る」を追究します。

大幸薬品株式会社　執行役員
京都工場・研究開発センター担当

**青木 賢吉 氏**

青木 賢吉（あおき・けんきち）氏
1954年生まれ
1978年 東北大学農学部食糧化学科卒
同年　アサヒビール株式会社に入社し、品質管理部長、醸造部長、工場長、研究開発本部長、常務執行役員吹田統括工場長を歴任し、2017年3月同社を定年退職。
同年7月、大幸薬品株式会社に入社し、生産・研究開発担当統括部長、京都工場・研究開発センター統括部長を経て、2018年6月から執行役員。

### 大幸薬品の歴史
### ～「正露丸」愛されて百年 ～

ラッパのマークの正露丸で知られる大幸薬品は、会長の柴田仁と社長の柴田高の祖父、柴田音治郎が、1946年に大阪府吹田市で創業しました。

正露丸の胃腸薬としての歴史は、1902（明治35）年に大阪の薬商が発売した「忠勇征露丸」にさかのぼります。創業者が製造販売権を継承した後、名称を正露丸と改めました。

正露丸が主体の医薬品事業と、空間除菌製品のクレベリンで2006年から本格的に展開を始めた感染管理事業が2本柱です。本社は大阪市で、正露丸を吹田工場で、クレベリンを京都工場・研究開発センターで製造しています。正露丸の製造ラインを2020年春ごろ、京都工場に移して一本化する予定です。

2018年3月期の連結売上高は約94億5900万円。医薬品が約6割、感染管理が約4割です。京都工場・研究開発センターは2015年8月にオープンしました。

研究開発センターの研究部は、正露丸の薬理作用などのエビデンス（科学的根拠）を研究・蓄積し、クレベリンの有効性や安全性の検証も行っています。開発部は安定性試験や分析を行って、新商品を送り出していきます。ベースとなる要素技術や量産技術と特許関連の業務も担っています。

### 医薬品と感染管理を2本柱に
### 正露丸とクレベリン

私は前職で研究開発センターにいたことがありますが、医薬品や感染管理という分野は、初めての経験になります。大幸薬品ですごいなと思ったことは、正露丸もクレベリンも、それぞれの商品カテゴリーではトップシェアであったことです。

正露丸はお腹のトラブル時の大衆薬として永らく愛されてきました。旅行者が海外に持っていく内服薬では、正露丸が1位という調査があります。海外に行くと、よく下痢をします。水あたりや食あたり、ストレスやウイルス・菌による下痢でも飲むことができます。

正露丸の主成分「木（もく）クレオソート」は当初、「殺菌剤」だと思われていましたが、研究の積み重ねから、大腸の正常な蠕動（ぜんどう）を止めずに、水分の過剰な分泌を抑えることで、下痢を治めている薬理作用が分かりました。また、腸内の善玉細菌に悪い影響を与えません。

クレベリンは主成分の二酸化塩素の分子が、空中に浮遊または物体に付着しているウイルスや細菌を攻撃し、タンパク質のアミノ酸を変性させることで、機能を停止させます。カビの生育を抑制し、臭いも除去します。

医薬品と衛生管理製品で全く違うのですが、どちらも日常生活のさまざまな場面でパフォーマンスを発揮するところが、すごいなと、私は思っているのです。

家庭用のクレベリンは置き型、噴霧するスプレータイプ、ポケットに入れて持ち運べるスティックタイプがあります。インフルエンザウイルスの感染予防や除菌意識の高まりで支持を得て、置き型では国内シェアの約8割を占めます。二酸化塩素ガスの発生ユニットを搭載した加湿器なども他社とのアライアンスで開発し、建物全体の衛生管理が必要な介護施設などでは、業務用のクレベリン発生機を活用いただいています。

大幸薬品 京都工場・研究開発センター(京都府相楽郡精華町光台1-2-1)

## 新たな可能性を探求
## 健康社会の「ないと困る」を追究する

「木クレオソート」は、ブナやマツなどの原木を炭化した時に出る煙を冷やして液体にした後、蒸留精製を繰り返す工程から得られます。昔からの伝統薬ですが、なぜ効くのかの作用メカニズムを解明して、お客さまにお伝えすべきだという当時社長だった柴田会長の考えで、有効性や安全性に関する基礎研究を1990年代から充実させてきました。

最近の研究で、正露丸が寄生虫によるアニサキス症の症状を改善したことが報告されています。糖尿病などの治療薬やがんの薬の副作用で、下痢を起こす人がおられます。そうした薬の本来の薬効を阻害せずに、下痢に対して正露丸がどんなパフォーマンスを示すのかの研究も、大学と連携して進めています。

糖衣錠に次いで約50年ぶりの新剤形「正露丸クイックC」を開発し、2017年4月に発売しました。液体のカプセルで、すばやく溶けて、効果を発揮します。20~30代の若年層への浸透を図りたいと考えています。

クレベリンでは会長の弟で元・外科医でもある社長の柴田高が国内外の大学や研究機関とのコラボレーションの土俵を作り、研究体制を強化しています。

2017年6月には大阪大学大学院医学系研究科と、空間環境感染制御学の共同研究講座を立ち上げました。iPS細胞などの再生医療で用いる細胞はインキュベーターの中で培養しますが、細胞自体には悪影響を与えずに、細胞培養に悪影響を与える微生物を、低濃度二酸化塩素ガスを用いて、いかに抑えるか。その最適な濃度を、研究員が大阪大学に常駐して、いろいろ模索しています。最新の成果を2019年3月の再生医療学会で発表する予定です。

売上高はまだまだですが、木酢液を園芸用や入浴用で販売しています。木クレオソートの製造工程の副産物からできた商品ですが、農家さんからは「土壌にいいし、植物の活性効果もある」と好評です。

なぜ、いいのかの作用メカニズムを、大学などと共同で研究しています。エビデンスではっきりすれば、環境にやさしい農業の実践を通じ、安全安心の食生活につながります。天然物由来ですが様々な条件でパフォーマンスを確認し、多くの農家さんに使っていただきたい。そんな研究もしています。

“健康社会の「ないと困る」を追及する”が、大幸薬品のスローガンです。お腹のトラブルを治すのも、ウイルスや細菌をやっつけるのも、食の安全も、全部が健康社会のなくては困るにつながるという意味で素晴らしいし、これからも面白いエビデンスを出していける会社だと思います。

## 職場体験の機会提供
## 地域の中学生に

2016年以降、地元の中学生の工場見学や職場体験を積極的に受け入れて、社会学習の機会を提供しています。精華町の公立の3中学校、奈良市の私立の2中学校のほか、精華町の教員の皆さんにも見学にお越しいただきました。

クレベリンの製造ラインや荷造りなどの現場を見ることで、一つの製品に、どれだけの工程と人手がかかっているかが分かります。「クレベリンのふたを閉める強さまで、こだわりを持っていることにも驚き、感動しました」。そんな感想を、お礼の手紙に書いていただいています。

地元 精華南中学校の生徒さんによる3日間の職場体験

製造現場での実習

安全教育レクチャー

クレベリン
cleverin

二酸化塩素分子のチカラでウイルス、菌を除去する衛生管理製品『クレベリン』シリーズ。
2018年9月、世界的デザイナーの佐藤オオキ氏が率いるデザインオフィス「nendo」によるデザインで全面リニューアル。

## お話から

私は異業種の「立ち飲み同好会」のような集まりを、社の内外でつくっています。

立ち飲みに集まるメンバーはみんな「同気」と言っているんです。狭いエリアで、肩を寄せ合って、同じ空気を吸っているから同気=同期?だと。

会社を一歩出たらオフサイトだから、同気同士で、なんでもしゃべり合いましょう、と。前職でもオフサイトの場で工場長と肩書で呼んだら、罰金で100円徴収して、支払い時の清算に回していました。

弊社は非常に魅力的な商品に恵まれこれからが楽しみな会社です。歳を忘れてこうした機会を通じて人の輪を広げていきたいと思います。

# けいはんなを知る
## 「文化をつくる」（第3回）

**途絶えた織物　復元して後世へ**
**女性主体の「相楽木綿の会」**

藍地色糸格子縞経緯絣（たてよこかすり）着物
製作者　福岡佐江子
写真提供:京都府立山城郷土資料館

### 色糸用いた華やかな柄

相楽木綿（さがなかもめん）は京都府南部の旧・相楽村（現在の木津川市相楽）を中心とした南山城地域で、明治初期から昭和10年代にかけて生産された木綿織物です。紺地に赤、黄、橙（だいだい）、白、緑などの色糸を多用し、縞（しま）や絣（かすり）が織り込まれた華やかな柄が特徴です。江戸時代の奈良晒（さらし）の織りの伝統を受け継いだ相楽村の農家が織元になり、近隣の女性の副業的な賃仕事で、大和機（やまとばた）と呼ばれる機で織られました。

大和機は縦糸を掛ける部分が傾斜しており、織りこなしにはこつと慣れが必要ですが、ふっくらとした風合いの良い布地が織れます。大正時代からは大和機を改良したチョンコ機が用いられてきました。

おしゃれな日常着として親しまれ、地元や奈良、京都、滋賀、大阪で流通しましたが、戦時体制下で糸の入手が困難になり中断。戦後は織元の一部は特産の布襖（ふすま）地製造へと転換しましたが、木綿生産は長く途絶えていました。

復元のきっかけは、京都府立大学が1987年から89年に行った京都府の衣生活調査でした。相楽木綿の生産と流通が分かり、報告書に盛り込まれました。また、相楽木綿に興味を持って調査に参加した奈良市の女性が、自分で収集した布地を木津川市の京都府立山城郷土資料館に寄贈。資料館は2004年秋、倉庫の片隅で眠っていた大和機や糸車などの紡織用具を布地や着物と共に展示して、忘れられていた地域の綿作りと木綿織りの歴史を紹介する特別展を開催しました。

その際、資料館の依頼を受けて、大和機による織りの復元に協力したのが、帝塚山短期大学（現 帝塚山大学）で織物の基礎技術を勉強していた木津川市の主婦、福岡佐江子さんです。翌年には、資料館の友の会サークル「相楽木綿の会」を立ち上げました。

### けいはんな記念公園で機織り教室

相楽木綿の会は、主婦ら女性が主体のグループです。発足後の4年間は月1回の例会と週1回の自由研究日を設け、布地の形状や色糸の種類などをルーペで拡大して調べ、試し織りをしました。地域の祭りには、綿繰りや糸紡ぎの実演などで参加。手織りの作業風景を見聞きしたというお年寄りに当時の思い出を聞き、その話に基づいて試し織りする方法で、復元作業で生じた疑問を解明する努力を重ねました。

製織技法に関する文献資料は全くありません。会発足2年目に、織る前に柄に応じて染め分けた糸を作る絣括り（かすりくくり）の仕事をしていた99歳の古老と知り合い、くくり方を直接教わったことが、「奇跡のようで、涙が出るほどうれしく思いました」と福岡さんは振り返ります。大和機の織りこなしは、試行錯誤を繰り返しながら、操作手順を習得していきました。

2008年に京都府の「京の力、明日の力コンクール」で優秀賞を受賞したのをきっかけに、2009年には新たな活動の場として、精華町の旧私のしごと館（現　けいはんなオープンイノベーションセンター）に「相楽木綿伝承館」を開設。しごと館が閉鎖された翌年には、けいはんな記念公園の交流施設の観月楼に再開設して、相楽木綿の機織り教室を開講しました。

相楽木綿の会代表の福岡佐江子さんと大和機

初級・中級・上級の3コースがあり、生徒は各コース6人。チョンコ機を使用して、約80人が受講しています。大和機でより高度な技術を習得できる専科や、相楽木綿の伝承者を育成する研究科もあります。夏休みには、子どもたちが自分で糸を紡いでミニマットを織るワークショップを開催。活動が評価されて、相楽木綿の会は2014年、公益財団法人衣笠繊維研究所（京都市）の繊維教育賞を受賞しています。

福岡さんによると、一種類の絣の横糸から亀甲、ひし形などの複雑な模様を織り出す「工夫絣」は、全国的にも珍しい高度な技法です。高級麻織物の奈良晒の製織技術を受け継ぎ、奈良と京都の文化を併せ持つ南山城地域の地理的な特色が、相楽木綿のモダンさを生み出す要因になったのでは、と指摘。「自然のものを取り入れて、人間の生活に役立ててきたのが文化です。それが相楽木綿にありました。会の活動を通じて復元し、その素晴らしさと先人の知恵を、後の世代に伝えたいと考えています」と話します。

### 6月に丹後の「藤織り」と合同展示会

相楽木綿の会は毎年3月、教室の生徒や会員が織った着物、布地などの作品を観月楼のギャラリー「月の庭」で展示しており、10回目となる2019年は3月11日から17日まで実施します。

また、6月21日から25日には京都市中京区のしまだいギャラリーで、伝承館での活動が10周年になる相楽木綿の会と、京都・丹後地方の山村に残る藤織りの技術の伝承活動が35周年を迎える「丹後藤織り保存会」との合同記念展示会が開催されます。藤織りは藤蔓（ふじづる）の樹皮繊維で織った布製品で、江戸時代に木綿が普及する以前は庶民の衣料の中心でした。京都の北と南の伝統的な織物が、展示会場で初めて顔を合わせます。

**■相楽木綿伝承館**

●開館日は日、月、木、金曜日。1月と2月は休館。
大和機による織りの工程は、webサイト「けいはんな小さな博物館」の映像詩「相楽木綿」の動画で閲覧できます。

**けいはんなを知る・「文化をつくる」第3回は、南山城地域で生産された木綿織物の復元継承に取り組む「相楽木綿の会」と、柿渋の天然素材としての特性の見直しと利用を提唱する「柿渋・カキタンニン研究会」を紹介します。日本人の伝統的な暮らしの文化を受け継ぎ、そこから学びながら、新たな可能性を見いだす活動を展開しています。**

# 天然素材の柿渋を見直そう「柿渋・カキタンニン研究会」

## 生活道具に利用　新たな用途も

柿渋は青い未成熟の渋柿を搾り、その液を発酵させて長期熟成して作る天然素材です。木、紙、布などに塗ると防水・防虫・防腐効果を発揮し、室町時代の古くから暮らしの道具に広範囲に利用されてきました。木製品では建材、家具やおけ、たるなど。紙製品なら渋紙、和傘、団扇など。漁村では釣り糸や網に柿渋を塗り、着物の柄の染色に使う型紙や漆器の下塗りにも用いられ、私たちの生活道具と伝統工芸を陰で支えてきました。

宇治茶で知られる京都府の南山城地域は、全国的な柿渋の産地でもあります。丘陵に広がる茶園では昔から渋柿の木が霜よけに植えられ、生産された「山城渋」は、木津川の水運や鉄道で大阪、京都の問屋に運ばれました。木津川市の三枡嘉七商店は、1872（明治5）年から柿渋関連商品を製造販売しています。3代目社長を務めた三枡武男会長によると、シブヤと呼ばれた南山城の柿渋業者は、農家との兼業を含めて昭和20年代には20数社を数えました。

その後、石油由来の化学塗料やプラスチック製品の普及で、需要は激減。廃業する業者が相次ぎ、現在は4社になりましたが、清酒やみりん、しょうゆを製造する際の濁りを吸着除去する清澄剤のほか、柿渋の肌の引き締め効果や消臭・抗菌作用に着目した化粧品や健康食品などに新たな用途が広がり始めました。木製の家具やのれんなどの柿渋染めも静かなブームです。

地域特産の品種である天王柿（てんのうがき）も、強い味方です。ゴルフボールほどの大きさで小粒ながら、長年の品種改良の結果、渋味成分のタンニンが多く含まれており、三枡会長は「南山城の柿渋作りは、優秀な天王柿のおかげです」と話します。

柿渋の原料柿の「天王柿」

## 市民参加でワークショップや講演会

柿渋・カキタンニン研究会は、京都府立大学の精華キャンパスの教員を中心とする有志によって2014年6月に立ち上がりました。活動は①柿渋の原料柿の生産拡大②柿渋の生産や品質の向上③柿渋文化の継承など。約40人の個人会員と企業、団体などの賛助会員で構成します。

会長は農学博士で鹿児島大学名誉教授の松尾友明氏です。専門は農芸化学。渋柿の渋抜き技術の研究開発を通じて、カキタンニンの正体である高分子ポリフェノールの構造を解明しました。退官後は住まいを木津川市に移し、研究会の発足時から参画して活動を率いています。

大学の柿渋研究者による講演会や柿渋商品の展示会のほか、市民参加のワークショップを4回開催。柿渋液に浸して乾燥させたポイ（薄い和紙を貼った網）で金魚をすくい、紙の耐水性の向上を確かめたり、復元した江戸時代の道具で原料柿を搾る作業を体験してもらいました。

柿渋・カキタンニン研究会の松尾友明会長

柿渋の増産技術を開発しようと、天王柿の苗木を養液栽培で生育する実験も、京都府立大学の研究者の協力を得て、精華キャンパスの附属農場で行っています。柿は種から果実の収穫までに8年程度が必要ですが、条件によっては4年ほどに短縮できる可能性が見え始めています。

## 柿渋の魅力と可能性 けいはんなから発信

2018年11月には「柿渋とカキタンニン」と題した科学絵本を発刊しました。廃プラスチックによる海洋汚染の深刻化と対比しながら、天然素材でヒトと地球環境にやさしい柿渋の特性を紹介。天然の高分子化合物のカキタンニンの成分である4種類のカテキンとその化学構造を、イラストと化学式で示して、鉄・クロムなどの重金属や悪臭成分と結合したり、食品の酸化や変色を防いだり、タンパク質と結合してウイルスを不活化する働きを分かりやすく解説しています。

高校、大学などの教育機関や国立国会図書館関西館、自治体が運営する公共図書館などに、無償で順次配布していく予定です。

2020年10月には4年に1回の「国際柿シンポジウム」が、わが国では初めて、奈良市で開かれます。主催は国際園芸学会で、世界10数か国から約200人が参加します。松尾会長によると、シンポジウムの運営委員会からは、日本の柿渋文化を会議の場で紹介してほしいとの要請が研究会に寄せられています。

柿渋は、日本人が長い歳月をかけて育んできた欧米にはない伝統技術です。松尾会長は「柿渋の文化と魅力、幅広い産業的利用も見込めるその可能性を、シンポジウムを含めた多様な機会といろんな手段で、けいはんな学研都市から内外に発信していきたい」と話します。

柿渋の科学絵本のページから

柿渋・カキタンニン研究会のホームページでは、
これまでの講演会での報告内容や
「おもしろ科学教室」の講義が動画で公開されています。

# 注目！企業インタビュー

～持続可能な社会づくりに活かす“けいはんな発”のイノベーションの力～

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

8 働きがいも 経済成長も

## IT活用で、高齢者や子どもに優しい街づくりや生活に貢献できる製品を

SOCINNO 株式会社ソシノ

プロフィール

株式会社SOCINNO（ソシノ）は、山中社長が前職のNTTで培った最新のIT技術を活かして創業。IoTで社会に貢献できる製品やサービス開発を進めています。SOCINNOはSOCIety（社会）とIt（IT）とINNOvation（革新）の3つからなる造語で、IT事業で新たな価値を生み出し、より良い社会を実現する会社になるという思いを込めて名付けられました。

地方創生が求められる中、地域の人材や特色を活かしたIoT社会の実現を目指しています。IoT製品を提供する上での基盤となるプラットフォームを構築し、現在はスマートリモコン「sRemo-R（エスリモアール）」の開発、販売をしています。

代表取締役社長
山中 清志 氏

### スマートリモコンで未来を少しだけ早く実現

東日本大震災をきっかけに、住宅メーカーだけでなく、電機メーカーや住設メーカーなどが次々に「スマートホーム」事業の展開を進めています。住宅設備や家電製品がネットワークにつながり、センサーや音声認識によってコントロールできるようにすることで、エコで快適便利な住環境をつくろうというものです。

2017年後半から、国内でも「Google Home」や「Amazon Echo」などの音声アシスタントを搭載したスマートスピーカーが販売開始され、呼びかけるだけで家電をコントロールするスマートホームが身近で現実的なものになってきました。IoT化の流れはもはや家庭の中でも止められないでしょう。いずれは、ほとんどのモノがネットワークにつながり、省エネと利便性を向上させるスマートホームが当たり前の時代がやってきます。

ただ、主要なスマートスピーカーは赤外線通信機能を持っていないため、対応する家電製品はインターネットとつながるいわゆるハイテクな「スマート家電」に限られています。家の中に複数の赤外線リモコンがあふれ、機器ごとにリモコンを選んで操作する暮らし方がまだまだ一般的です。スマート家電を持っていなくても、スマートホーム化を進めたい、そんな希望を叶えるのが「スマートリモコン」です。

スマートリモコンとは、従来型のテレビやエアコンなどに付属しているリモコンの代わりに赤外線を発信してくれる小型の電子機器です。自宅のWi-Fi環境に接続して、家の外からも家電の電源をOn Offしたり、スマートスピーカーと連動して音声認識でコントロールすることが可能になります。当社は、2017年6月にスマートリモコン「sRemo」の販売を開始し、2018年8月に最新モデルの「sRemo-R2」をリリースしました。

### 自由度が高く、環境条件による制御も可能な家電コントロール

「sRemo-R2」の最大の特徴は、コストパフォーマンスが高く多機能であることです。グラフによる見える化や家電操作の自由度が高いことが評価されており、ユーザーの工夫次第で生活を相当便利にするポテンシャルを持っています。専用アプリで赤外線リモコンと

2015年9月、国連において、国際社会全体が取り組む行動計画「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17のゴールと169のターゲットを掲げた「持続可能な開発目標(SDGs(エスディージーズ))」が示されました。SDGs 達成に有用な技術や経験を有し、社会課題解決へのポテンシャルをもつけいはんなの企業をご紹介します。

同じ操作ができるだけでなく、室内の状況を内蔵センサーにより自ら判断して適切な温度や湿度を保ったり、位置情報や時間設定によって自動で操作したりすることもできます。例えば、次のようなことが可能です。

- 温度・湿度・照度データ(6時間分)を専用アプリでグラフ閲覧でき、過去1年分をクラウド保存
- GPSと連動し自宅に着いたらライトを点けるなどの家電制御
- 室温が30度を超えたらエアコンをつけるなど、温度・湿度・照度で家電制御
- 8時になったら特定の局のテレビをつけるなど、タイマー起動で家電制御
- テレビをつけてHDDの電源を入れ録画一覧を表示など、一連の制御をボタン一つで順番に操作

温度・湿度・照度をグラフ表示できることは、当社製品の大きな強みです。ペットや植物を飼育している場合は、出先から室内の状況を確認できるので、温度管理ができて安心です。照度のデータを見れば、夜遅くに家族がまだ起きているかどうかもわかるので、「駅まで迎えに来てもらおう」とか「寝てから帰ろう」とか、判断もできます(笑)。

また設定した条件に応じて自動で機器を操作できるため、室温が上がりすぎる前に自動でエアコンを入れるなど、高齢者の熱中症対策にもなります。スマートスピーカーと連携させることで、「テレビつけて」「ライトつけて」と呼び掛ければ家電を制御でき、さらにマクロ機能と組み合わせれば、「おはよう」と言うだけでテレビと照明とエアコンをつけてニュースを読み上げる、といった動作をすべて実行するなんてことまでできるのです。

現在の温度等情報を閲覧

過去分も日時指定で閲覧

「録画をつけて(例)」等の音声操作でマクロ機能で一連の連続制御が可能

## 地域の人材や特色をいかに活かして発展させていくか

どのように地域創生を行うかが今後の日本の発展には非常に重要になってくると感じています。人口減や高齢化で都市部の人口集中率が高まり地方が衰退していく中、地域の人材や特色をいかに活かして発展させていくかが重要です。

多くの魅力ある企業や大学、研究施設が集まっている学研都市に位置し、地元も近い京田辺を拠点に事業を行っています。ITはインターネットさえあれば場所に依存しない技術ですので、介護や育児で都市部では働きにくい人も、地方での活動はより親和性が高いと考えています。ITを活用して地域を発展させる地域創生のモデルケースとなれるよう取り組みたいと考えており、京田辺市近辺では地域の特産としてお茶の栽培が盛んですので、ITを使うことで生産性をあげ、生産管理の質の向上も検討していきたいと考えています。

## ITノウハウが簡単に学習できるような教材開発も

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されることもあり、IT技術は今後ますます必要です。ITノウハウが簡単に学習できるような教材開発や取り組みも始めていく予定で、当社製品に入っているボードのようなものを基板も何も買わなくても簡単に作れるような学習キットの開発を検討しています。せっかく学研都市の京田辺に立地しているので、関係する行政や大学・高校・中学に持ち込み、地元とのつながりを持てるような取り組みをしていきたいです。

会社は利益追求ももちろんですが、ステークホルダー(利害関係者)に対して有益である必要があると考えています。より良い製品、サービスを提供し従業員もやりがいを感じ、お客様含めてすべてのステークホルダーが満足できる事業運営を心がけていきます。

**株式会社ソシノ**　〒610-0313　京都府京田辺市三山木垣ノ内69 大隈ビル2階　TEL: 0774-27-5344　URL: http://socinno.com/

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構は、関西SDGs貢献ビジネスネットワークに参加しています。詳しくは近畿経済産業局のサイトをご覧ください。

http://www.kansai.meti.go.jp/2kokusai/SDGS/businessnetwork/businessnetwork.html

# 関西文化学術研究都市建設推進に向けた要望活動

関西文化学術研究都市建設推進協議会(会長:松本正義関西経済連合会会長)では、政府の予算編成において、けいはんな学研都市の建設促進や産業振興を求め、毎年2回、夏と秋に国に対して要望活動を行っています。

このたび、11月15日(木)に、関西経済連合会、京都府、大阪府、奈良県および関西文化学術研究都市推進機構が、関係各省庁を訪問のうえ要望書を提出しました。

要望書の提出に際し推進協議会側から各省庁に対して、けいはんな学研都市の現状を立地する研究機関等の研究成果を交えて説明したうえで、予算の重点的配分や、「新たな都市創造プラン」実現のための新たな都市創造会議への参画、自動運転を含む新たな交通システム実現に向けたサンドボックス制度適用への支援、学研都市内外インフラの早期整備、特別償却を認める税制措置の2年間延長などを求め意見交換を行いました。

## 要望書提出先

内閣府、総務省、財務省、文部科学省、農林水産省、
経済産業省、国土交通省(含 観光庁)、国立国会図書館

## 関西文化学術研究都市建設推進に向けて

重点要望事項 平成30年11月

1. 本都市への学術・研究機関・企業集積実績を生かした我が国の競争力強化につながる施策の実施
2. 都市基盤整備の促進
3. 新産業創出・産業集積につながるプロジェクトの推進
4. 学術・研究開発機能の整備・活用

内閣府との意見交換

国土交通省との意見交換

TOPICS 2

# 建設促進議員連盟けいはんな学研都市を視察

自由民主党関西文化学術研究都市建設促進議員連盟の細田博之会長、高市早苗顧問、北川知克幹事長、安藤裕事務局長、小林茂樹事務局次長及び本田太郎委員の6名の国会議員が、8月31日にけいはんな学研都市を視察されました。けいはんなプラザ、(株)国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、（国研）情報通信研究機構（NICT）、(株)ATOUN、（国研）量子科学技術研究開発機構（QST）を訪問し、学研都市の現状や各機関の最新の研究開発状況の調査を行われました。

けいはんなプラザでは、ラボ棟13階より精華・西木津地区を展望され、推進機構や地元市町長から都市整備の課題等について説明を受けられました。ATRでは最先端のロボット技術や脳情報科学の研究、NICTでは最新の多言語音声翻訳技術について、実証デモ視察、意見交換が行われました。ATOUNでは実際にパワーアシストスーツを着用体験され、QSTでは高強度レーザー技術の学術・医療・産業への応用について、最新の研究成果を視察されました。

意見交換において細田会長からは、「長い議連の歴史の中で、各省庁、自治体、大学や研究機関と関係を密に取り組んできたが、まだ不十分な点がある。今後も課題を乗り越えるために、各省庁や地元の協力を基に、具体的にターゲットを決めて成果を出して行こう」との話をいただきました。

TOPICS 3

# 京都府議会本会議がけいはんなプラザで開催

京都府議会の9月定例会代表質問が、9月19日と20日の2日間、けいはんなプラザのメインホールで開催されました。京都府庁の府議会議場以外での開催は、2016年9月の舞鶴市での定例会以来2度目で、南部では初めての開催。当日は、地元住民や近隣の高校生など600人が傍聴に訪れました。

府議会各会派の代表質問では、京奈和自動車道をはじめとした京都府南部地域の道路網整備、けいはんな学研都市の将来展望、学研都市での成果を活かした更なる産業集積などについても取り上げられました。

西脇隆俊知事の答弁では、「京奈和自動車道の4車線化を国等へ要望していく」ことや「超快適スマート社会をけいはんな学研都市でまず実現し各地に広げていく」こと、更に「RDMM支援センター等による学研都市を起点としたイノベーション創出が、より企業活動の好循環に寄与するように取り組む」こと等の考えが示されました。

けいはんな学研都市の関係者や住民にとっても、京都府議会と知事が課題解決に取り組む姿を身近に感じることができる2日間となりました。

村田正治議長挨拶

答弁に立つ西脇隆俊知事

けいはんなプラザで開催される京都府議会本会議

# 長尾 真 国際高等研究所前所長が文化勲章受章

文化の日の11月3日、皇居宮殿において平成最後の文化勲章の親授式が開かれ、国際高等研究所第7代所長（2015年4月～2018年3月）の長尾真先生（京都大学第23代総長、国立国会図書館第14代館長、情報通信研究機構初代理事長）に、天皇陛下から勲章が授与されました。

長尾先生は、情報工学、特に知的情報処理の分野で世界をリードする独創的な研究成果を上げ、実用化に多大な貢献を果たされた御功績により受章されたところであり、これまでにも2005年に日本国際賞受賞、2008年文化功労者顕彰、2014年からは日本学士院会員に就任されているところです。

そして、けいはんな学研都市においては、今年3月まで国際高等研究所所長として「けいはんな未来」懇談会を中心に、けいはんな学研都市の30年後に向けてご提言をまとめられ、昨年3月の「けいはんな学研都市30周年記念シンポジウム」では基調講演をいただき、30年の歴史を振り返りつつ、30年後のあるべき姿を描き、その職住のバランスの取れた理想の都市づくりについて道筋を提示いただきました。

長尾先生には、現在も推進機構の顧問、けいはんなオープンイノベーションセンター名誉館長等にご就任いただき、引き続き、けいはんな学研都市発展のためにご指導いただいております。



## けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム中間成果報告会

# 「けいはんなR&Dイノベーションフォーラム2018」を開催

関西文化学術研究都市推進機構RDMM支援センターは、去る11月12日、グランフロント大阪で、けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアムの「平成30年度中間成果報告会」と「イノベーションフォーラム2018」を開催しました。

午前中に開催した「中間成果報告会」では、企業、大学・研究機関、公的機関等96会員で構成するコンソーシアムについて、「モビリティ・エネルギー」、「未来の食」、「健康」、「新テーマ創出」といった各ワーキンググループのプロジェクト創出活動や、「公道走行実証実験プラットフォーム(K-PEP)」の運用、海外イノベーション推進機関とのグローバル連携などコンソーシアム活動を支援するRDMMの取組が、会員に報告されました。

午後から開催されたフォーラムには、会員以外の一般の方を含め、約80名の方々の参加がありました。冒頭、コンソーシアム活動に関する一般向けの紹介が行われた後、「関西・アセアン・環インド洋の連携拠点をめざして」をテーマに、海外連携最前線でご活躍の3名の方から講演をいただきました。

JASTIPの福原氏からは、成長するASEAN市場や、JASTIPによる日本の科学技術イノベーションのASEAN展開の取組等について紹介があり、「SDGs達成に向け共に取り組んでいってもらいたい。」との期待を表明されました。また、タイCMU/STePの副所長Dr.Wattanachaiからは、タイのノーザンサイエンスパーク(NSP)の新産業創出の取組について、同じく副所長のDr.Uthaichanaからは、技術スタートアップ支援の仕組みと人材交流の提案がありました。参加者からは、それぞれ興味のある技術分野について、タイの現状や今後の方向性などの質問があり、今後のグローバル連携の進展に期待が寄せられました。

日ASEAN科学技術イノベーション共同研究拠点(JASTIP) プログラム・コーディネーター 福原 隆一氏

チェンマイ大学 サイエンステクノロジーパーク(CMU/STeP) 副所長 Dr.Pitiwat Wattanachai

チェンマイ大学 サイエンステクノロジーパーク(CMU/STeP) 副所長 Dr. Kasemsak Uthaichana

「けいはんなR&Dコンソーシアム」の詳細や会員登録については下記URLにアクセスしてください。
https://www.kri.or.jp/conso/

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
RDMM支援センター

TOPICS 6

けいはんな学研都市6大学連携

# 市民公開講座 2018

## けいはんなから「知の発信」

### ～恒例の市民公開講座を 今年も国立国会図書館関西館で開催～

けいはんな学研都市に立地する6大学と国立国会図書館関西館の共同企画による「市民公開講座2018」が、8月31日(金)から毎週金曜日に3週連続で開催しました。平成12年から毎年秋に開催している催しで、今年で19回目となります。会場は、国立国会図書館関西館の傾斜のついた綺麗な大会議室で、説明画面も見やすく、聴講者の方々からも好評を得ています。

今年も延べ634名の方々に聴講いただくことができました。参加者アンケートのご意見・ご要望に沿うように検討してまいりますので、「市民公開講座2019」のご参加をお待ちしています。

### 今年の講座内容(開講順)

- 奈良学園大学　**サイバー・マインドフルネス(瞑想)の世界**　奈良学園大学大学院　辻下 守弘 教授
- 同志社大学　**健康寿命延伸に向けて**　同志社大学　渡邊 裕也 助教
- 大阪電気通信大学　**身体活動と健康**　大阪電気通信大学　太田 暁美 准教授
- 奈良先端科学技術大学院大学　**見たいものだけ鮮明に見えるカメラ**　奈良先端科学技術大学院大学　向川 康博 教授
- 同志社女子大学　**健康長寿のカギを握る「食べる力」**　同志社女子大学　杉原 百合子 准教授
- 京都府立大学　**植物工場のこれまでとこれから**　京都府立大学　伊達 修一 講師
- **夢の青いバラ**(国立国会図書館関西館小展示関連講演)　サントリーグローバルイノベーションセンター(株)　勝元　幸久 主幹研究員

TOPICS 7

# 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所　施設公開

光の実験ショー

10月28日(日)、毎年恒例の施設公開を開催しました。昨年度は台風による荒天のため中止となりましたが、今年度は天候にも恵まれ、1,100名を超える方々に来所いただきました。

当日は、世界トップクラスの高強度レーザー施設の見学をはじめ、紙コップロケットや発泡スチロールたこ等の工作教室、さらには光の実験ショー、セグウェイ試乗体験等のイベントを多数用意し、研究所内はお子様連れのご家族等で大変賑わい好評をいただきました。

未来を担う子どもたちが、光の不思議さ、光が引き起こす様々な現象に触れることにより、私たちの生活、命(医療)、エネルギーを支える量子科学技術を一層身近に感じれたのではないか、と思います。

工作教室

施設見学

TOPICS

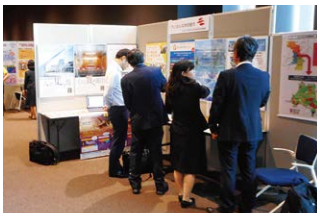
TOPICS 8

## 2025年万博、大阪・関西での開催が決定

2025年国際博覧会（万博）の開催国を決める博覧会国際事務局（BIE）総会が11月23日にパリで開かれ、投票により大阪・関西での開催が決定しました。

1970年以来55年ぶりとなる大阪・関西での万博は、大阪湾の人工島・夢洲の155ヘクタールを会場に、2025年5月3日～11月3日の185日間開催する計画で、2800万人の来場を想定しており、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに環境問題や健康、医療など世界的な課題であるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた技術貢献をめざします。

また、万博決定前の9月28日（金）には、誘致実現をめざし、「大阪・関西が切り拓く“いのち輝く未来社会”シンポジウム」が大阪市の中之島会館で開催されました。澤芳樹大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科教授がコーディネーターを務められたパネルディスカッションには、パネリストとしてATR脳情報通信総合研究所の酒井雄希研究員にも登壇いただき、健康・長寿社会の実現に向けた、けいはんなにおける最先端の研究について紹介いただくとともに、けいはんな学研都市を紹介するブース展示も行いました。



出典：経済産業省

TOPICS 9

## 「けいはんな異業種交流会」“業コン”の開催

9月21日（金）、木津川市の薬膳レストラン「あわさい」にて、けいはんな学研都市域内の4市町（京田辺市・木津川市・精華町・生駒市）に立地するさまざまな業種・規模の企業35社から代表者・営業担当者など40名が集結し、異業種交流会が開催されました。

普段のビジネス商談とは全く違う、飲食を交えた和やかな雰囲気の中、各テーブルで名刺交換から始まり、参加者の自己紹介、事業・技術のPR、地域や業界の情報交換等、参加者同士による自発的な交流が深まりました。

参加者からは事前にアンケートを実施、各参加者のニーズを把握した各市町及び商工会の担当者にご協力いただき、限られた時間の中で、できる限り多くの方と有効なマッチングが行われるよう、参加者の配席や席替えを促すなど運営にご支援いただきました。

1対1の交流だけでなく、参加者全員の前で自社PRのプレゼンテーションを行う場を設けるなど、約2時間にわたり、多くの新しい出会いが誕生する有意義な機会となりました。

交流会開催後には、参加者から「けいはんな地域内で、普段は知り合えない業界の方と新しい人脈を作ることができた」、「他業界の方の話を聞くことで、新しいアイデアを生み出すヒントが得られ、多くの刺激を受けた」などの声が多数寄せられました。

これからもけいはんな地域に立地する企業が地域内及び近隣の様々な業種の新たなビジネスパートナーと出会うことで、異業種への進出を支援し、地域産業の活性化と新産業創出を促す取り組みを通じて、けいはんな地域全体の産業振興に貢献してまいります。

# 第24回高山サイエンスタウンフェスティバル

学生イベントのパフォーマンス

プチコンサート

11月11日（日）、学研都市高山地区立地施設等連絡協議会（奈良先端科学技術大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、奈良先端科学技術大学院大学支援財団）の主催により、今年で24回目となる「高山サイエンスタウンフェスティバル」を開催しました。毎年秋に、地域交流を通じて先端科学技術への関心を高めることを目的に、各施設で様々なイベントを開催しています。生駒商工会議所の「学研生駒・商工まつり」や生駒市の「環境フリーマーケット」ほか各種イベントも同時開催され、約1万人が参加し、大人も子どもも楽しい1日を過ごしていただきました。

## 高山サイエンスプラザ

「親子科学教室」では、44組の親子がペーパークロマトグラフィーを使って色の成り立ちを楽しく学習しました。また、「科学に関する絵画展」では、近隣の小学生が未来の生活やロボット等を描いた入賞作品68点を紹介しました（12/25まで展示）。さらに、お昼の「プチコンサート」では、トランペット、サクソフォン、ピアノ、ドラムスによる迫力ある演奏に会場のムードが一気に盛り上がりました。そのほか、青空のもとパワー溢れる「ミニ鉄道」が800人を超える子どもたちを乗せて滑走すれば、落ち着いた和の空間「呈茶席」が250人のお客様を抹茶と甘いお菓子でもてなしました。

ミニ鉄道

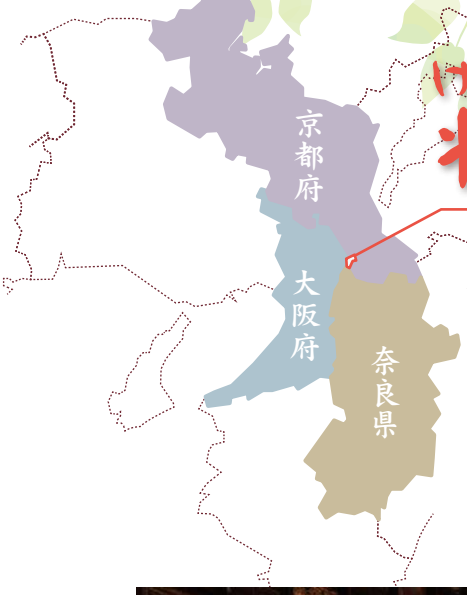
顕微鏡をのぞく子どもたち

## 奈良先端科学技術大学院大学
### 「オープンキャンパス2018」～親子・友達で科学を楽しむ～

今年も天候に恵まれ、子どもから年配の方々まで、最先端の科学技術に触れ親しみました。子どもから科学を楽しめる「体験プログラム」ではロボットを操作したり、植物の色素を観察したりと様々な科学体験ができました。各領域でのパネル展示やデモでは、顕微鏡など研究でも使用している実験機器に直接触れたり、ロボットのパフォーマンスを間近で見ることができました。野外では学生イベントによる実験パフォーマンスを実施し、観客からは歓声があがっていました。また、キャンパス内のスタンプを集める「子どもスタンプラリー」では、1,000人以上の子ども達が見事に達成して、奈良先端大オリジナルグッズを手にしました。参加者からは、「勉強になり、とても楽しかった」、「普段は入れない大学の中を見ることができてよかった」、「研究内容を子どもにもわかりやすく説明してもらえた」などの声が多数寄せられました。

来場者に、本学で行われている研究を通じて科学の魅力を身近に感じてもらうとともに、未来の科学者たちに夢を持ってもらえるよう親子・友達で楽しむプログラムやデモを実施した本イベントは、今回も大盛況のうちに幕を閉じました。

ロボットを操作する子どもたち




# けいはんな わがまち魅力発信［精華町］

## 精華町の歴史を紹介するデジタルミュージアム「せいか舎（しゃ）」公開中

精華町の歴史や文化財を広く紹介するため、デジタルミュージアム(アーカイブ)のサイトを精華町役場のホームページに構築しました。ミュージアムの名称は「せいか舎(しゃ)」です。

地域の歴史・民俗・景観をはじめとする地域資源を再発見し、情報を整理・集積し、インターネットを通じて公開することで、ふるさとの歴史や伝統文化を伝えていきます。

## ネットで学ぶ精華町の歴史

精華町は、京都と奈良という二つの都の間に位置し、その影響を受けながら、古代から近代まで特色ある歴史や文化を育んできました。

学研都市の開設以来、新しく住民となられた方、通勤される方、仕事や観光で訪問される方が増えてきました。しかし、その歴史的な魅力については、まちを訪れる方だけではなく、地元の方にも知られていないことが、まだまだたくさんあるかと思われます。

精華町というまちは、どのような歴史を歩んできたのでしょうか。また、地域にはどのような文化財や行事が伝わるのでしょうか。

そこで、まちの歴史や伝統文化を保存(アーカイブ)し、インターネット上で手軽に知ることができるデジタルミュージアム「せいか舎」をつくりました。「せいか舎」のネーミングには、精華の歴史にまつわる情報を保存・蓄積していく建物（舎)という意味が込められています。

最近では、町史編さん事業で刊行し、分かりやすい町の歴史の入門書として親しまれてきた『せいか歴史物語』のデジタル版の公開を始めました。現在「せいか舎」には、次ページのようなコンテンツが公開されていますが、今後も順次追加・更新していく予定です。

「せいか舎」を通じて、過去の精華町にタイムトリップし、その魅力を再発見してみませんか。

「せいか歴史物語 デジタル版」

## 現在公開中のページ

### せいか歴史物語

まちの歴史を知るための入門書がデジタル版になりました。

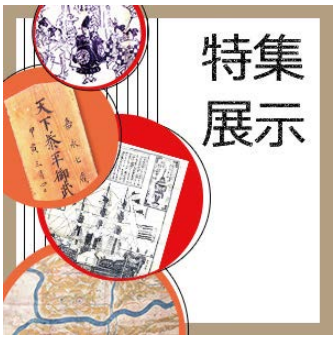
時代ごとに要点を選び、写真や図を交えながら、分かりやすく述べています。

### 精華町の文化財

仏像や建造物など、精華町内には、貴重な文化財がいくつも残されています。

町内に伝わる指定・登録文化財を紹介します。

### 特集展示




精華町の歴史や民俗について、多様なテーマにスポットを当て、掘り下げます。

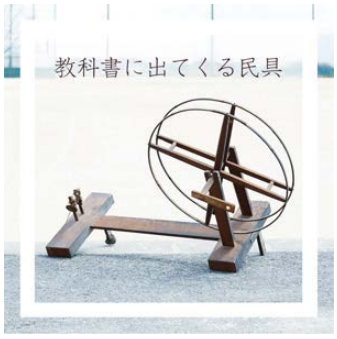
さまざまな資料と切り口から地域の歩みをたどります。

### みんなの民具

かつての暮らしのなかで使われていた民具を集めました。

昔の米作りや、食生活のなかで使用された懐かしい道具の数々をご覧ください。

### 教科書に出てくる民具




小学校の社会科では、昔の道具について学ぶ単元があります。

教科書に登場する民具を集めたコーナーです。学習にもご活用ください。

### 昔の写真

時代とともに、精華町の景観や生活風景は大きく変化しました。

皆様から提供いただいた昔の精華町の写真を公開しています。お手持ちの古い写真も募集中です。

精華町役場ホームページ
http://www.town.seika.kyoto.jp/
トップページ バナーをクリック
インターネットで検索してください

ふるさと デジタル アーカイブ
せいか舎
Seikasya

http://seikasya.town.seika.kyoto.jp/ http://seikasya.town.seika.kyoto.jp/

# TOPICS

## NEW 新規立地企業紹介

TOPICS 11

# 株式会社環境総合リサーチ

2018年8月20日、光台二丁目に新オフィスを開設いたしました。

弊社では環境調査･測定を中心に、様々な調査･分析に対応しています。前身会社（ユニチカ環境技術センター）の時代から数えて京都府で40年以上の環境分析の実績がございます。

近年では一般的な環境分析に加えて、ダイオキシン類の分析、PCB測定、土壌汚染対策法の分析や放射能検査、遺伝子解析など、様々なニーズにお応えできる幅広い技術とその精度の高さが自慢です。経験豊富で様々な国家資格を持つそれぞれ専門の技術者がお客様のご要望、お悩みに誠実に、積極的に提案し、対応いたします。

ラボツアーなどの見学会や相談会についても、お気軽にお声がけください。移転を機に社員一同より一層の専心努力をし、今まで以上に皆様のお役に立てるようにチャレンジして参ります。今後とも皆様のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台二丁目3-9　TEL.0774-41-0200
http://www.ctiers.co.jp

最新鋭の測定機器

**事業内容**

- ●工場排水分析
- ●排出ガス分析
- ●作業環境測定
- ●土壌汚染対策関係（提案･調査･分析）
- ●ダイオキシン類調査･分析
- ●放射能検査
- ●PCB調査･分析
- ●悪臭調査･分析
- ●水道法に係る測定
- ●遺伝子解析(環境DNAなど)
- ●環境調査、ミニアセス 等

TOPICS 12

# 直通バス（けいはんな学研都市⇔京都駅）2018年10月1日より本格運行開始

けいはんな学研都市の精華･西木津地区と京都駅･十条駅を高速ルート（京奈和自動車道～新名神高速道路～第二京阪道路）で結びます。
けいはんなプラザ（精華大通り）～京都駅間最速46分。運賃は大人片道700円（専用共通回数乗車券:700円券5枚綴り=3,000円）です。
※座席定員制。予約制ではありませんので、直接各のりばへお越しください。

## 時刻表　平日のみの運行となります

※京阪は京阪バス、奈交は奈良交通が運行します。

●京都市内行き

| | | 奈交 | 京阪 | 奈交 | 京阪 |
|---|---|---|---|---|---|
| 乗車のみ | 学研けいはんなプラザ | — | 8:45 | 18:00 | 19:00 |
| | 光台七丁目 | 6:55 | 8:47 | 18:02 | 19:02 |
| | 光台六丁目 | 6:58 | 8:50 | 18:05 | 19:05 |
| | けいはんなプラザ | 7:01 | 8:53 | 18:08 | 19:08 |
| | 国立国会図書館 | 7:03 | 8:55 | 18:10 | 19:10 |
| | 木津川台九丁目 | 7:05 | 8:57 | 18:12 | 19:12 |
| | 木津川台六丁目 | 7:07 | 8:59 | 18:14 | 19:14 |
| | KICK | 7:10 | 9:02 | 18:17 | 19:17 |
| | 公園東通り | 7:11 | 9:03 | 18:18 | 19:18 |
| 降のみ車 | 十条駅 | 7:44 | 9:34 | 18:49 | 19:49 |
| | 京都駅八条口(H4おりば) | 7:50 | 9:40 | 18:55 | 19:55 |

●けいはんな学研都市地域行き

| | | 京阪 | 奈交 | 京阪 | 奈交 |
|---|---|---|---|---|---|
| 乗のみ車 | 京都駅八条口(H4のりば) | 7:25 | 7:55 | 17:40 | 19:00 |
| | 十条駅 | 7:30 | 8:00 | 17:45 | 19:05 |
| 降車のみ | けいなわ通り | 8:01 | 8:31 | 18:16 | 19:36 |
| | KICK | 8:02 | 8:32 | 18:17 | 19:37 |
| | 木津川台六丁目 | 8:05 | 8:35 | 18:20 | 19:40 |
| | 木津川台九丁目 | 8:07 | 8:37 | 18:22 | 19:42 |
| | 国立国会図書館 | 8:09 | 8:39 | 18:24 | 19:44 |
| | けいはんなプラザ | 8:11 | 8:41 | 18:26 | 19:46 |
| | 光台七丁目 | 8:13 | 8:43 | 18:28 | 19:48 |
| | 光台六丁目 | 8:16 | 8:46 | 18:31 | 19:51 |
| | 学研けいはんなプラザ | 8:20 | 8:50 | 18:35 | 19:55 |

**運休日**・土、日、祝日、振替休日、国民の休日　・ゴールデンウィーク:4月30日～5月2日
・お盆:8月12日～8月16日　・年末年始:12月29日～1月4日

お問合せ：京阪バス 075-681-5591（7時～21時）　奈良交通 0743-78-5368（6時～22時）

# EVENT CALENDAR

## ●一般の皆様へ 1 January

### ●けいはんな映画劇場
## 「嘘八百」

監督：武正晴
出演：中井貴一　佐々木蔵之介　友近　森川葵　坂田利夫　木下ほうか　塚地武雄　桂雀々
配給：GAGA

千利休ゆかりの国宝級茶器が400年ぶりに発見?!
極上の骨董ロマンを最高のお宝コメディに仕立てた開運　初笑いエンターテインメント!

| 上映日時（1時間45分） | | | |
|---|---|---|---|
| 1月11日(金) | ①10:30～ | ②13:30～ | ③18:30～ |
| 1月12日(土) | ①10:30～ | ②13:30～ | ③16:00～ |

料金
※当日券のみ
一般1,000円　小・中学生、シニア（60歳以上）700円
けいはんなプラザ友の会会員 700円

© 2018「嘘八百」製作委員会

## 春・京文化 学びのつどい ～恋舞妓と京風料理を楽しむ会～

京都祇園。五花街の中で最も格式高いとされる祇園甲部、お茶屋「つる居」に籍を置く舞妓 美月とあす佳の二人。
若くして伝統を重んじ、華やかながら厳しい世界で生きる選択をした彼女たちが語る芸舞妓、伎芸の世界。
祇園の今を知り、京都の歴史・文化とホンモノの「美」にふれる。お食事とともに、春のひとときをどうぞー

日時: 1月26日(土)13:00
場所: けいはんなプラザナイル
<出演>　祇園甲部「つる居」
舞妓（あす佳・美月）　芸妓（紗月）

内容
●祇園の『今』　～現役舞妓による花街トーク～
●間近で見る舞妓　～京舞の披露、舞妓との写真撮影～
●はじめての舞妓談義　～クイズで知る舞妓～

入場料：一般 11,000円 けいはんなプラザ友の会 10,000円　申込み・問合せ・主催：（株）けいはんな 0774-95-5115

## ●一般の皆様へ 2 February

### ●けいはんな映画劇場
## 「妻よ薔薇のように」
### （家族はつらいよⅢ）

監督：山田洋次
出演：橋爪功　吉行和子　夏川結衣　西村まさ彦　ほか
音楽：久石譲
配給：松竹

一身上の都合にて【主婦】を退職させて頂きます。

| 上映日時（2時間3分） | | | |
|---|---|---|---|
| 2月1日(金) | ①10:30～ | ②13:30～ | ③18:30～ |
| 2月2日(土) | ①10:30～ | ②13:30～ | ③16:30～ |

料金
※当日券のみ
一般1,000円　小・中学生、シニア（60歳以上）700円
けいはんなプラザ友の会会員 700円

©2018「妻よ薔薇のように」家族はつらいよⅢ」製作委員会

## ●一般の皆様へ 3 March

## けいはんなタイ・フェスティバル

けいはんな学研都市での研究や人的交流は、近年ますますグローバル化が進んでいます。
今回は、タイとの交流に焦点をあてた「けいはんなタイ・フェスティバル」を開催します。
美味しいタイ料理や楽しいアトラクションと共に、楽しく学術交流・文化・観光など現在のタイを学びましょう。

日時: 3月23日(土)
24日(日)
11:00～16:00

場所: けいはんなプラザ
日時計広場
イベントホール

内容：講演会、飲食ブース、物産ブース、団体紹介
ステージイベント、タイ映画上映など（予定）

主催：けいはんなタイ・フェスティバル実行委員会

## 夏井いつきの句会ライブ ～京都・けいはんなホール～

テレビでおなじみ　俳人・夏井いつき先生による体験型俳句プログラム。
「簡単な俳句の作り方」を皆さんへご紹介した後は、俳句作りにチャレンジしてみましょう。
当日のグランプリを、けいはんなホールで決定します!

日時: 3月28日(木)
13:30開場
14:00開演
場所: けいはんなプラザ
メインホール

入場料：（全席指定/税込）一般 2,000円　けいはんなプラザ友の会 1,800円
※前売券が完売の場合、当日券はなし
チケット発売日：1/8（火）10:00～（初日、(株)けいはんなでの電話予約は13:00～）
チケット取扱い　・（株）けいはんな 事業部 TEL:0774-95-5115（平日10:00～17:00）
・ケイ・ネット平和堂 京田辺店（アルプラザ京田辺1F）TEL:0774-65-2109
・ローソンチケット TEL:0570-084-005　（Lコード51750）
主催：（株）けいはんな 事業部

2018.12
Vol.40
けいはんな学研都市 広報誌
【けいはんなビュー】
View

表紙写真

## けいはんな記念公園

（京都府立関西文化学術研究都市記念公園）

けいはんな学研都市の建設を記念し、また平安遷都1200年の記念事業として京都の造園会が総力を挙げて整備した都市公園で、1995年4月に開園。水景園（回遊式日本庭園）、芽吹きの森（里山）、棚田風の芝生広場などがあり、敷地面積は24.1haにも及びます。水景園に屏風状に配置されている「巨石群」は圧巻で、高さ6～7メートル、重量20～40（最大70）トンの岡山県犬島の御影石約500個からなる全長150メートルの壮大な空間で「荒々しい自然」を表現しています。
写真提供:けいはんな記念公園

## けいはんなの話題

### 企業・大学様のR&D活動のお手伝い「Clubけいはんな」サポートサービス始めました

RDMM支援センター（関西文化学術研究都市推進機構）は、今夏から、「Clubけいはんな」のサポートサービスを開始しました。Clubけいはんな会員の皆様のご協力を得て、企業・大学の研究開発活動を広く応援するサービスです。

2018年11月末現在、「Clubけいはんな」会員数は2,200名を超え、会員の協力によるインターネット調査やワークショップ、実証実験の評価などを通して住民目線の貴重な意見を得られます。これまで大阪、京都、奈良の企業に加えて東京の大学にも利用して頂き、今後の研究開発活動に役立てて頂いています。

同サービスの特徴は、①実費のみの御負担で調査が可能　②会員の積極的な参画（アンケート回答率平均50%以上）③専門スタッフによる調査サポートが得られること等です。利用ご希望の企業様と一緒にサービスの詳細検討から実施、結果の考察までサポートさせて頂きますのでどうぞお気軽にご相談ください。

お申込み・お問合せは、RDMM支援センター（rdmm@kri.or.jp）まで。

産官学住連携による研究開発、街づくりに真に役立つプラットフォームに育てたいと強い信念のもとメンバー全員で知恵と汗を絞っています。皆様の応援が力になります。どうぞよろしくお願いします。

サポートサービス詳細は、ホームページをご覧下さい。
https://www.kri.or.jp/conso/club_2/club.html

また「Clubけいはんな」の核となる会員募集も引き続き行っています。
皆様も活動に参画してポイントゲットしてください。
会員登録はこちらから
https://www.kri.or.jp/contact/entry/club_New-member.html

## 編集後記

「けいはんなオータムフェア2018」のイベントが開催されている中、吉報が続きました。

今年のノーベル生理学・医学賞を京都大学の本庶佑先生が受賞されました。この受賞につながった研究成果のうち、免疫を抑制する「PD-1」を発見されたのは、かつての教え子で奈良先端科学技術大学院大学准教授の石田靖雅先生です。石田研究室では「PD-1」の研究が継続して行われています。

さらに、国際高等研究所前所長の長尾真先生が文化勲章受章の栄誉に輝かれました。長尾先生は長年にわたり、けいはんなの理想の都市づくりをけん引してこられています。

けいはんな学研都市ではさまざまな分野で優れた業績を残し、素晴らしい賞を受賞されている研究者も少なくありません。

そして、2025年の大阪万博では、けいはんな学研都市の最先端の研究成果が、人類共通の課題解決に向けた関西の大きな強みとして万博を成功に導くことが期待されています。1970年の万博を実際に体験した者としては、ますますけいはんなから目が離せません。（善）

○編集・発行　公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL.0774-95-5105 FAX.0774-95-5104
○ホームページ　https://kri.or.jp/
○けいはんなポータル　http://keihanna-portal.jp/
○制作・印刷　株式会社チャンピオンシップス

けいはんな学研都市

（関西文化学術研究都市）

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
Utilizing 100% post-consumer recycled paper pulp